

# 令和4年度普及指導活動成果事例

令和5年7月

青森県農林水産政策課

	ページ
<b>東青（管轄市町村：青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町、蓬田村）</b>	
1 「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ	1
2 トマト指定産地の生産力向上	2
3 活力ある農山漁村づくりを目指した女性起業活動の推進	3
4 サポート体制の強化による新規就農者の経営力向上	4
<b>中南（管轄市町村：弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、西目屋村、田舎館村）</b>	
1 中南型産直モデルの確立と産直間の連携強化による地産地消の推進	5
2 需要に応える「青天の霹靂」の生産と新品種「はれわたり」の普及拡大	6
3 中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大	7
4 多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成	8
<b>三八（管轄市町村：八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村）</b>	
1 地域で支える新規就農者の育成・確保	9
2 産地直売組織を支える農山漁村女性の育成	10
3 「ジュノハート」のブランド化に向けた良品生産の拡大	11
4 ながいも産地の維持に向けた担い手の育成	12
5 重要病害虫等に対応できるにんにく生産者の育成	13
<b>西北（管轄市町村：五所川原市、つがる市、鯨ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町、中泊町）</b>	
1 品質特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産	14
2 スマート農業を活用した大規模稲作省力・低コスト技術の普及	15
3 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及	16
4 水稻育苗用ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大	17
5 地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり	18
6 地域を支える農山漁村起業の推進	19
7 労働力確保対策の推進による生産体制の整備	20
<b>上北（管轄市町村：十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）</b>	
1 栽培基本技術の徹底によるながいも産地力の強化	21
2 ながいもの産地実態を踏まえた高品質安定生産による産地強化	22
3 労働力不足に対応するスマート農機の普及拡大	23
4 大豆の安定生産と省力・低コスト技術の導入による収益性の向上	24
5 TMRセンターを核とした酪農経営支援	25
6 新規就農者の定着と経営管理能力の強化	26
7 共生社会を支える女性人財の育成と産直組織の新たな取組拡大	27
<b>下北（管轄市町村：むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村）</b>	
1 新規就農者による「夏秋いちご」の産地力強化	28

# 1 「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ

～「生産指導カルテ」と「青天ナビ」を活用した重点指導活動～

## 【概要】

- 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームが生産者や関係機関と情報共有し、各生産者が生産目標を達成できるように個別指導を通して、生産者の生産意欲向上と安定生産を目指した。

## 【背景・課題】

- 全生産者の出荷データを分析する中で、生産目標を下回る生産者が固定化していることが分かった。そこで、生産者全員に栽培ポイントを示した「生産者カルテ」の配布と、生産目標を下回った生産者への個別指導を実施。各ほ場ごとの特徴を吟味した栽培方法の改善、気象変動に対応した栽培管理ができるように個別指導する必要があった。

## 【普及指導活動の内容】

- 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームを通して、各関係機関と連携を強化するための連絡会議を開催し、今年度行う活動内容を決定し意識統一を図った。
- チーム員の追肥指導に当たっての技術統一と今年の管内の生育状況の情報共有のための現地検討会を開催した。検討会終了後、チーム員で各生産者に対して、幼穂形成期以降の栽培管理について指導した。
- 育苗期、追肥時期、稲刈時期に講習会を開催し、各ほ場に応じた栽培管理について指導した。

## 【成果】

- 玄米タンパク質含有率6.4%以下（出荷基準）の達成者は98%となった。
- 生産目標のうち玄米タンパク質含有率6.0%以下の達成者は62%となった。

## 【対象者】

青森農協「青天の霹靂」生産者部会（43名）、青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会（3名）、(株)KAWACHO RICE（7名）



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチームの現地検討会（7/8）



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチーム良食味生産対策会（3/20）

## 2 トマト指定産地の生産力向上

～省力的な誘引方法の導入支援と新規作付者の育成支援～

### 【概要】

- 省力・低コスト化に有効な2本仕立てUターン誘引栽培や自動かん水システムの導入支援を行った。
- また、新規作付者や栽培歴の浅い農業者に対しては、主に個別巡回により就農後の経営安定化に向けた技術支援を実施した。
- さらに、トマト・ミニトマトとも品種の切り替えが進む中、その特性に応じた管理方法を指導した。

### 【背景・課題】

- 管内のトマトは、高齢化や労働力不足等により栽培面積が減少している。一方ミニトマトは1戸当たりの栽培面積が増加傾向にあり、どちらも省力・低コスト化が課題となっている。
- ミニトマトは新規作付者が増加しており、栽培者間での技術のバラツキが見られる。
- トマト・ミニトマトとも品種の切替えが進んでいるが、新たな導入品種の特性に応じた技術の習得が課題となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 2本仕立てUターン誘引栽培のほ場で栽培講習会を行ったほか、冬期講習会で高温対策等について指導した。
- 自動かん水システム新規導入者や導入歴の浅い生産者に対して個別巡回を実施し、機器運用や保守管理について指導するとともに、システム既導入の先進農業者を講師とした研修会を開催し、効果的な活用方法について指導した。
- トマトでは「りんか409」、ミニトマトでは斑点病耐病性品種「サマー千果」を栽培する生産者が増加したため種苗メーカーと連携し品種特性に応じた栽培管理方法について指導した。

### 【成果】

- 令和4年度の2本仕立てUターン誘引栽培の導入戸数は26戸となった。
- 令和4年度の自動かん水システムの導入戸数は13戸となった。
- 導入品種の特性に応じた管理方法の理解が深まった。

### 【対象者】

青森農協トマト部会（85名）  
青森農協ミニトマト部会（28名）



農業者を講師とした研修会



種苗メーカー担当者と収穫時着色管理を確認



冬季講習会における高温対策の指導

### 3 活力ある農山漁村づくりを目指した女性起業活動の推進 ～農山漁村女性の意欲を生かした地域課題解決～

#### 【概要】

- 現地巡回や聞き取り調査等により、農山漁村女性による起業の活動状況や課題を整理した。
- 課題解決に向けて、事業の活用や個別指導等に取り組み、女性起業の経営力向上を図った。

#### 【背景・課題】

- ベテランの起業組織の中には、食を生かした地域貢献活動に興味を示したり、将来を見据えて、地域の若手女性農業者等に加工技術や事業の継承を望む組織も現れてきている。
- 新規就農者の若手女性の中に、農業経営の一環として、起業活動に関心を示す人が増えてきている。
- 活力ある農山漁村づくりを実現するためには、これらの意欲ある女性農業者に対して、段階に応じた支援を行い、起業活動の充実強化を行う必要がある。

#### 【普及指導活動の内容】

- 郷土料理の伝承に関心を持っていた、平内町「グランマの会」に対し、「食」に関する地域活動についての働きかけを行った結果、県事業を活用しモデル実証に取り組んだ。
- 若手女性1名が加工活動の継承に意欲を示したため、先輩起業家とのマッチングを行った。
- 起業活動に関心を持つ若手女性に個別指導を行った結果、新規就農者2名が県事業を活用して乾燥野菜や野菜を使った菓子などの新商品開発に取り組んだ。

#### 【成果】

- 平内町の女性組織は、郷土料理のリストアップとレシピ集の作成、消費者交流会（3回）の開催等により、地域での伝承につながった。
- 若手女性と起業組織の意向を踏まえたマッチングと専門家による講座を開催した結果、事業継承に向けた方向性が確認できた。
- 若手女性2名が県事業を活用し、野菜パウダー、野菜入り菓子を商品化できた。

#### 【対象者】

農山漁村女性（34起業）  
若手女性農業者（35名）



県事業で導入した食品乾燥機



郷土料理のリストアップ会議



専門家による事業継承講座

## 4 サポート体制の強化による新規就農者の経営力向上

### 【概要】

- 非農家出身の新規就農者等が多い東青管内において、新規就農者が農業を生業として地域に定着できるよう、経営者として必要な知識の早期習得と東青地域の主要品目を主体とした所得確保に向けて、支援を強化する。

### 【背景・課題】

- 非農家出身者は、生産基盤の脆弱さ、農業経営に対する考えの甘さ等から所得確保に苦戦している。
- 就農希望者に対しては、経営者としての心構えや就農に向けた助言環境の整備が必要となっている。
- 就農支援体制を強化するとともに就農希望者の能力向上が必要となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 新規就農者の能力向上に向け、りんご、ミニトマトの指導拠点ほを設置し、栽培対策講座の開催のほか、新規就農者による先進地調査報告会、商品開発をテーマとした研修会及び相談会等を開催した。
- 農業青年を対象にスマート農機実演会等のニューファーマー育成講座を開催したほか、随時、就農相談対応や補助事業の活用を支援した。
- サポート体制の強化に向けて、関係機関等を参集した「東青地域新規就農支援会議」を開催したほか、研修受入農家等を対象にコーチング技術等向上研修会を開催した。また、受入農家をリストアップをした。
- 就農希望者を対象に営農計画や生活設計の立案方法等の習得を目的とした農業総合セミナーを開催した。

### 【成果】

- 新規就農者の栽培技術の向上や知識の習得、仲間づくりが推進された。
- 関係機関等が一体感を持って支援を行う体制が整った。
- 研修受入農家等の就農希望者とのコミュニケーション能力向上が図られた。

### 【対象者】

- 就農希望者（農業次世代人材投資資金（準備型）交付者6名等）
- 新規就農者（農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付者51名等）



指導拠点ほで説明を聞く新規就農者



コーチング研修会で意見発表する参加者



自動操舵トラクタの実演会

# 1 中南型産直モデルの確立と産直間の連携強化による地産地消の推進

～ 産地直売施設が抱える諸課題の解決を通じた認知度と販売額の向上 ～

## 【概要】

- 産直施設の認知度や販売額の向上を目指し、管内産直施設・市町村・農協等で構成する協議会での県外の先進産直施設研修、複数生産者から集荷した高冷地野菜を複数産直へ配送する共同集荷モデル実証及び産直施設が連携したPRに取り組んだ。

## 【背景・課題】

- 管内産直施設では、約7割が65歳以上で、運転が困難な生産者の増加等により、新たな集荷体制が必要となっている。
- 道の駅や大規模な産直施設は認知されているが、小規模な産直施設にあっては、近隣住民以外その所在等が認識されていない。

## 【普及指導活動の内容】

- 産地直売施設協議会の設置・運営により連携体制を強化した。
- 高冷地野菜の生産者7戸から集荷し3産直施設へ配送する共同集荷モデルを実証した。
- 産直施設が連携したPRとして、スタンプラリー、産直マップの配付、地域FM放送による産直レポート等を実施した。

## 【成果】

- 共同集荷モデル実証では、人気の高い高冷地野菜を午後の品薄時に陳列できたことや高冷地野菜がなかった産直施設では、陳列の幅が広がり、来店客には喜ばれた。
- スタンプラリーは、りんごこぎん柄の保冷バッグが評判で、期間終了を待たずに景品がなくなり終了となった。期間中の売上げが前年を上回り、認知度の向上が図られた。
- 毎週金曜日のコミュニティーFMによる産直レポートは、消費者から好評であった。

## 【対象者】

中南地域産地直売施設協議会  
(30団体)



県外視察研修



高原野菜の販売状況



保冷式のエコバック



地域FMの産直レポート（生放送）

## 2 需要に応える「青天の霹靂」の生産と新品種「はれわたり」の普及拡大 ～「青天の霹靂」の全生産者出荷基準達成と、新品種の本格デビューに向けて～

### 【概要】

- 青森県産米のトップブランド「青天の霹靂」の良食味・高品質生産支援により、需要に見合った供給量の確保と全生産者のお荷基準達成を目指した。
- 新品種「はれわたり」の普及拡大に向けて、品種特性の把握と、生産者へ周知を図った。

### 【背景・課題】

- 「青天の霹靂」は、実需者や消費者から高い評価を得ており、また、安定した米価が支持され、令和4年産は過去最大の作付面積となった。新規作付者が多い中ブランド価値を維持するために、全生産者の高品質・安定生産を図る必要がある。
- 令和5年産の本格デビューを控える新品種「はれわたり」は、生産者への品種特性の周知と、県外生協との取引がある生産部会に対して品種切替えに向けた支援が必要である。

### 【普及指導活動の内容】

- 「はれわたり」の指導体制を整備するため、中南地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（以下中南PT）に改称した。
- 中南PTでは、連絡会議の開催、各品種の生育観測ほの設置、生産情報の提供、現地講習会の開催により、関係機関や生産者と情報共有を図った。
- 令和3年産の「青天の霹靂」出荷基準未達成者に、「青天ナビ」を活用した作付ほ場の確認、適切な肥培管理や適期刈取りについて指導した。
- 生産部会に対して、「はれわたり」の現地検討会や講習会の開催、食味用サンプルの配付を通じて、品種特性や栽培技術の理解に努めた。

### 【成果】

- 「青天の霹靂」の出荷基準達成率は、県平均の97.7%を上回る98.6%と高い達成率となり、単収は昨年を0.1俵上回る8.7俵となった。
- 講習会等で「はれわたり」の良食味等の品種特性が理解され、5年産の管内の作付面積は700haを超える見込みとなった。
- ときわ良質米生産部会では、令和6年産に「はれわたり」への全面切替えが決まった。

### 【対象者】

中南管内「青天の霹靂」作付者（408経営体）、新品種「はれわたり」作付者（15名）、JA津軽みらいときわ良質米生産部会（213名）



第2回連絡会（6/28）



生産部会現地検討会（8/5）



刈取適期講習会（9/7）



### 3 中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大

～シャインマスカット・ジュノハートの高品質果実生産の推進～

#### 【概要】

- 関係機関・団体と連携して、ぶどうシャインマスカット及びおうとうジュノハートの基本的生産技術の習得等に向けた支援を行い、高品質果実の安定生産を図った。

#### 【背景・課題】

- 近年、シャインマスカットの新規作付者が増加しているため、無核処理等の基本技術の普及が急務である。
- ジュノハートは県がブランド化を進めているため、県のブランド化推進協議会が設定した品質基準や出荷規格を周知徹底し、高品質大玉生産を推進する必要がある。

#### 【普及指導活動の内容】

- シャインマスカットは講習会や巡回により基本技術の周知を図った。また、大玉で高糖度のシャインマスカット生産園での新梢の生育状況や管理方法、無核処理時期などについて調査し、その結果を情報交換会等を通じて情報提供した。
- ジュノハートは生育観測ほを設置して生育ステージや着果状況を確認するとともに、農協等と連携して目揃い会や個別指導で生産者に出荷を呼び掛けた。

#### 【成果】

- シャインマスカットは、8月の大雨の影響と見られるべと病等の病害、裂果等の障害の発生が目立ったことにより、出荷量が減少した園地が見られたものの、出荷量は、前年の29.5トンから45トンに増加した。
- ジュノハートは雨よけ被覆後も裂果の発生が多かったことから、適期収穫と出荷規格の徹底を生産者に強く呼び掛けながら出荷を促したところ、7人の登録生産者が出荷規格を満たしたジュノハートを出荷した(出荷量:約64kg)。

#### 【対象者】

弘果シャインマスカット作付者(95名)、  
JAぶどう生産者協議会(中南地区88名)、  
おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者(18名)



シャインマスカットの房づくり指導



ジュノハート結実状況

## 4 多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成 ～地域活性化に向けた女性農業者の新たな取組への支援～

### 【概要】

- 地域の活性化を図るため、女性起業家等を対象にセミナーを開催したほか、「農のふれカフェ」実践者を対象に、個別指導や情報交換会を行った。また、女性起業家の地域共生社会の実現に向けた活動について支援した。

### 【背景・課題】

- 農産加工や消費者交流活動に取り組む女性起業家は、新商品開発や新たなサービスの提供等による起業活動の取組拡大が課題となっている。
- 女性起業家の高齢化に伴う後継者育成や事業継承、若手女性農業者の起業開始に向けた支援等により、起業活動に取り組む女性農業者を育成する必要がある。

### 【普及指導活動の内容】

- スキルアップや加工技術や事業の継承に向けたセミナーを開催したほか、新商品開発や起業化に向けて個別に支援をした。
- 「農のふれカフェ」実践者に対し、情報交換会の開催や個別巡回を行い、体験メニューの開発と実践に向けた支援を行った。
- 女性起業家による地域の「食」を生かした地域課題解決の取組に対して支援した。

### 【成果】

- 女性起業家や「農のふれカフェ」実践者が新たに3商品・2サービスの提供を開始した。
- セミナー等の開催を通して地域活動や起業に関心のある若手女性農業者の掘り起こしができた。
- 「食」に着目した地域共生社会につながる活動として、「農のふれカフェ」実践者1名が郷土料理教室を開催して食文化の伝承を始めたほか、福祉事業者と連携した商品開発や地域住民等との交流を実施した。

### 【対象者】

女性起業家（49名・組織）  
起業活動に関心のある女性農業者（20名）  
「農のふれカフェ」実践者（11名）



女性起業セミナーの様子



若手農村女性を対象とした  
スキルアップセミナーを開催



郷土料理の伝承活動

# 1 地域で支える新規就農者の育成・確保

## 【概要】

- 新規就農者の確保や定着に向け、地域ぐるみの支援体制づくり、作物の栽培技術・経営管理能力等の習得による所得向上及び新規就農者のネットワークづくり等の支援を行った。

## 【背景・課題】

- 三八地域では、新規就農者の約7割が非農家出身であるため、身近な人から農業の基礎を学ぶことが出来ない場合が多い。
- このため、市町村との情報交換と支援方向の検討を行いながら地域の実情に即した対策を講じることにより新規就農者の経営安定化、定着を図っていく必要がある。

## 【普及指導活動の内容】

- 指導農業士会、4Hクラブ、市町村、農協等を参集し、地域ぐるみでの新規就農者の育成・確保に向けた体制づくりを検討した。
- 「土づくりと肥料」等をテーマに、新規就農者フォローアップセミナーを開催し、基礎的技術の習得を支援した。
- 新規就農者のほ場3か所（スナップエンドウ、ピーマン、ミニトマト）に収益力アップチャレンジ農場を設置し、栽培技術の向上を支援した。
- 「さんぱちファーマーズマルシェ」を開催し、新規就農者同士の交流を促進した。

## 【成果】

- 各市町村の振興作物延べ14品目について、新規就農希望者の農業研修受入先として、管内先進農家（12経営体）を確保した。
- 収益力アップチャレンジ農場の設置により、新規就農者が問題点の解決策を自ら検討し実践したほか、意欲的に経営改善に取り組む意識が醸成された。
- さんぱちファーマーズマルシェは、約1,500名が来場し、販売活動を通じて新規就農者と消費者の交流が図られた。また、新規就農者と若手農業者による実行委員会を中心に開催したことから、自主的に今後も取組を継続する動きがみられる。

## 【対象名】

農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付対象者（50名）  
同交付終了者（151名）



フォローアップセミナー（8/2）



収益力アップチャレンジ農場（8/9）



さんぱちファーマーズマルシェ（10/2）

## 2 産地直売組織を支える農山漁村女性の育成

### 【概要】

- 農山漁村女性の育成に向けて、女性起業者等を対象とした郷土料理の技術伝承講習会の開催やこども園と連携した食を生かした地域活動への取組を支援した。さらに産直組織を対象に、産直の販売額向上に向けたPR活動への支援や販売力強化に向けた研修会等を開催した。

### 【背景・課題】

- 産直組織では、会員の高齢化により郷土料理の加工等に取り組む女性起業者が減少し、品不足が課題となっている上、後継者不足により加工技術が継承されず、郷土料理の存続が難しい。
- 郷土料理の技術伝承や産直組織の販売力及び機能強化の取組支援で、産直組織を支える人材を育成する。

### 【普及指導活動の内容】

- 郷土料理の技術伝承に向けて、若手女性起業者等を対象に、郷土料理の「きんかもち」や「赤かぶ漬け等」の講習会を開催した。
- 先輩女性起業者と若手女性起業者によるマッチングを実施し、寒大根等の技術指導や事業継承等について情報交換した。
- 郷土料理を活用したこども園への給食の提案や郷土料理体験交流会の開催等を支援した。
- 産直組織の資質向上に向けて、活動検討会の開催やラジオを活用したPR活動、イベントポスター作成等への取組を支援した。

### 【成果】

- 若手女性起業者は、講習会で学んだ加工技術を磨き、産直での販売など技術伝承につながった。
- 女性起業者の食を生かした地域活動では、こども園の給食での長芋等を活用した料理の提供や「豆しとぎ」の体験交流会の開催により、子供たちが郷土料理に触れる機会を増やすことができ、今後も保育園と連携して活動することとした。
- 産直組織では、毎週ラジオでのPR放送や、毎月各産直のイベント情報をまとめたポスターの作成及び掲示により客数の増加につながった。

### 【対象名】

三八産直ネットワーク(15組織)  
管内女性起業者(38件)  
若手女性起業者(15件)



郷土の味を伝え継ぐ技術伝承講習会  
「漬物加工と営業許可」(9/6)



体験交流会の開催(1/31)  
「みんな大好き!豆しとぎを作ろう!」



産直のPRに向けたラジオの収録  
「なんぶふるさと物産館」

### 3 「ジュノハート」のブランド化に向けた良品生産の拡大

#### 【概要】

- おうとうジュノハートのブランド化に向けて、講習会や巡回指導等により栽培技術の普及や出荷規格の遵守に取り組んだ。結実不良や裂果等がみられたが、おおむね生育状況に応じた適正管理が行われ、八戸農協及び南部市場の出荷量は前年を上回った。

#### 【背景・課題】

- ジュノハートは、ブランド化推進協議会の戦略に基づきブランド化が進められており、令和2年に県外販売が開始され、良品生産の拡大が必要である。
- 若木が多く生産量が増加していくので、栽培技術の普及が必要であり、着色不良や障害果等の対策が求められている。
- 出荷規格が一部で守られていないので、規格の周知と遵守が必要である。

#### 【普及指導活動の内容】

- 講習会開催（4～6月、3回）や生産情報発行（4～6月、4回）により、適正管理指導や出荷規格の周知を行った。
- 生育観測ほを5園地に設置し、調査データを講習会等で活用した。
- 若手や収穫量の多い生産者を濃密指導するため、22戸をリストアップし、4～5月に農協及び南部市場と一緒に個別巡回指導を行った。
- 裂果対策や出荷方法の情報共有のため、6月に生産・出荷現地検討会を開催した。
- 着色向上に向けて、サンキャッチ液剤（植調剤）の現地実証ほを1か所設置した。
- 来年産の良品生産と適正出荷に向けて、2月に生産出荷研修会の開催や栽培暦の配布を行った。

#### 【成果】

- 開花期の不順天候により結実がやや少なく、6月上旬頃の降雨等により裂果が多発したが、おおむね生育状況に応じた適正管理が行われた。
- 系統出荷は27名（前年15名）で出荷量408kg（同391kg）、南部市場は41名（同27名）で出荷量265kg（同135kg）であった。

#### 【対象名】

おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者（117名）



栽培講習会（4月）



生産出荷現地検討会（6/17）



生産出荷現地検討会（6/17）

## 4 ながいも産地の維持に向けた担い手の育成

### 【概要】

- 優良種苗の更新につなげるため「増殖方法を改善した種苗の導入効果実証ほ」を設置し、1年子の形状や揃いを検討した。
- また、若手生産者の栽培技術の高位平準化に向けて、現地講習会及び「担い手育成塾」により排水対策等を指導した。
- 個別課題の解決に向けて「生産技術チェックシート」で自己分析を促すとともに、「省力作業体系実演会」への参加誘導を図り、機械化による省力化について指導した。

### 【背景・課題】

- ながいもの作付面積・栽培人数は、高齢化等で減少している。産地を維持するため、単収向上と省力化推進による作付面積の拡大が必要である。
- 「若手研究会」へのアンケートにより品質向上、労働力の確保、規模拡大や輪作ほ場の確保が課題となっており、優良種苗への更新と担い手の個別課題の解決を目指す。

### 【普及指導活動の内容】

- 「増殖方法を改善した種苗（切いも由来のむかご）の導入効果実証ほ」を設置したほか、種いも生産における「選抜」の必要性を説明した。
- 「生産技術チェックシート」による聞き取りと個別指導を行った。
- 講習会で適期追肥、防除、排水対策を指導し、「担い手育成塾」では、現地ほ場で達人の技術に関する研修会を開催した。
- 「にんにく省力作業体系実演会」に、ながいもの生産者3名が参加した。

### 【成果】

- 種苗の実証ほでは、実証区で1年子形状の揃いは良かったが、むかごサイズや植付時期の検討が必要と考えられた。
- チェックシートにより自己分析が促され、種苗増殖体系の重要性も理解された。
- 現地講習会、育成塾の後、再度溝を切る等の排水対策を講じる動きが見られた。
- 省力作業体系実演会では、機械化による補助労働力の軽減を期待する意見があった。

### 【対象名】

八戸農協野菜総合部会、ながいも専門部、ながいも若手研究会（47名）



種苗導入効果現地実証ほ収穫物  
(上:実証区、下:対照区)



育成塾：通路排水を確認（10/13）



生産出荷現地検討会（6/17）

## 5 重要病害虫等に対応できるにんにく生産者の育成

### 【概要】

- 生産者自身が重要病害虫の被害を把握し、乾燥方法の改善が図られるように、現地講習会を行った。また、種苗増殖に関する研修会及び省力技術導入に向けた実演会を開催し、それぞれアンケート調査を行った。

### 【背景・課題】

- 当地域ではチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、モザイク病等の重要病害虫による被害が多い。また、品質向上のため乾燥技術の改善も必要とされている。
- 種苗増殖専用ほ場の設置を指導しているが、販売用ほ場と隔離されず、適正な管理が行われていない。
- 前年のアンケートにより、植付け・収穫作業の負担と労働力不足が明らかとなったため、労働力の現状把握と省力技術の導入が必要である。

### 【普及指導活動の内容】

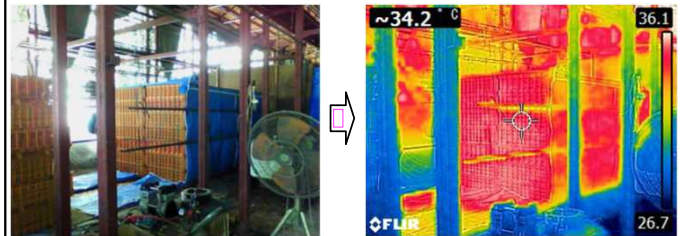
- 現地講習会では、生産者が重要病害虫の被害を判別できるよう、解りやすい写真を使用しながら防除の徹底と適期収穫を指導した。また、ウイルス検査を行うとともに、乾燥時には個別巡回を実施した。
- 若手生産者を対象に「にんにく優良種苗増殖技術研修会」を開催した。
- にんにく生産に関するアンケート調査を行い、労働力の現状を分析した。
- 「にんにく省力機械化体系実演会」を開催し、アシストスーツ等の実演を行った。

### 【成果】

- 現地講習会では、薬剤防除の徹底と適期収穫の重要性が理解された。また、乾燥時の個別巡回では「乾燥チェックリスト」で基本技術を確認し、サーモグラフィーにより温度ムラの改善が図られた。
- 「にんにく優良種苗増殖技術研修会」を通じて種子専用増殖ほの重要性が理解され、1名が新たに設置する意向を示した。
- アンケートに回答した生産者の56%が労働力不足であり、特に収穫作業で顕著となっていることが明らかとなった。
- 「にんにく省力機械化体系実演会」では、アシストスーツへの関心が高く、3名の生産者に貸し出された。

### 【対象名】

八戸農業協同組合、にんにく専門部五戸支部西部（190戸）、田子支部（144戸）



サーモグラフィーで見える化(右側)

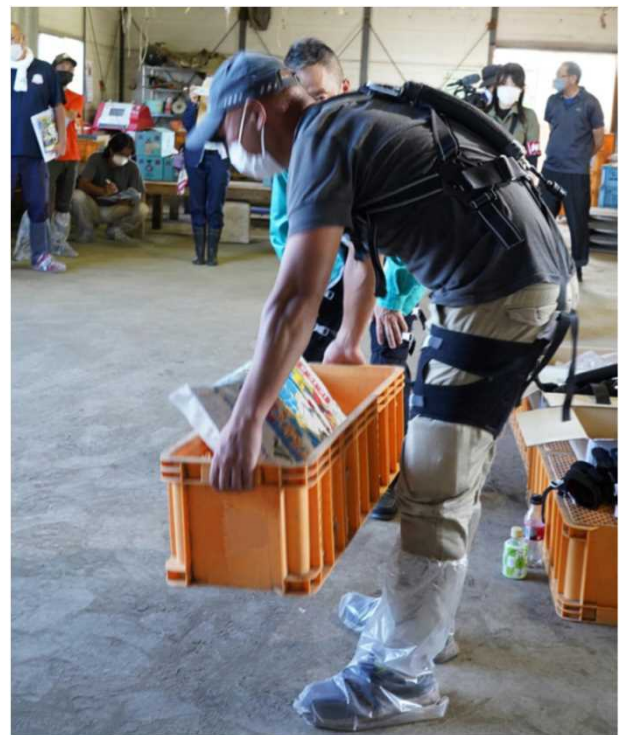
#### にんにく生産に関するアンケート

令和4年6月  
三八地域農業普及推進課  
八戸農業協同組合

このアンケートは、三八地域のにんにく生産における労働力の実態を把握するために行うものです。記載していただいた個人情報はつきましても、農協と連携して共有し、今後のにんにく生産における労働力の参考データとする以外での用途では使用しません。6月の講習会の際にご提出をお願いします。

- 住所 \_\_\_\_\_ 市・町・村 \_\_\_\_\_ 地区 \_\_\_\_\_
- 年齢 □20代以下 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代 □80代以上
- 専任業務は何ですか？  
販売用 \_\_\_\_\_ 種子用 \_\_\_\_\_
- 現在の労働力は何人ですか？  
家族 △ 手伝い △ 作業員 △ 種苗屋員 △
- 現在の労働力は足りていますか？  
□足りている（6の質問へ） □足りていない（6の質問へ）
- 労働力が一層足りない作業は？（1つだけ回答してください）  
□種子選別 □種こぼし □種子消毒 □種付け □薬剤散布 □収穫 □乾燥 □出荷 □選別 □その他（ ）
- 6の作業は何人足りていますか？  
□1人 □2人 □3人 □4人 □5人以上
- 労働力を確保するためにしていることは？  
□農協や知り合いにお借りする □ハローワーク等で募集する □作業を委託する □機械を導入する □何もしていない □その他（ ）
- 今後のにんにく専任作業は？  
□増やす □現状維持 □減らす  
以上で質問は終わりです。ありがとうございました。

調査項目を絞ったアンケート(様式)



アシストスーツ体験  
省力機械化体系実演会（9/7）

# 1 品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産 ～プロジェクトチームの連携による高品質・安定生産の支援～

## 【概要】

- 県産ブランド米「青天の霹靂」の新規作付者及び前年産出荷基準未達者を支援することで良食味・安定生産に取り組んだ。
- 令和5年産から本格デビューを予定している「はれわたり」の普及拡大に向けて、生産者への品種特性の周知を行った。

## 【背景・課題】

- 「青天の霹靂」は、販売価格が高値で安定していることから、新規作付者が37名となった。また、栽培の要点が浸透しつつあるが、出荷基準を達成できない作付者が毎年見られている。
- 「はれわたり」は、収量・品質面で一斉導入に不安を感じている生産者がいる。

## 【普及指導活動の内容】

- 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームでは、指導拠点ほ設置、夏季研修会、現地講習会等を開催し関係機関や生産者と情報共有を図った。
- 「青天の霹靂」新規作付者及び前年産出荷基準未達成者等に対し、「青天ナビ」を活用し、肥培管理・適期刈取を指導した。
- 「はれわたり」では、拠点ほ担当農家に対し、品種特性に応じた栽培管理について指導し、指導拠点ほを活用した研修会では、生産者に対して品種特性を周知した。

## 【成果】

- 「青天の霹靂」新規作付者の出荷基準達成率は89%で、目標の90%をおおむね達成した。
- 「青天の霹靂」前年出荷基準未達者の合格率は67%で目標の100%を下回った。
- 「はれわたり」指導拠点ほ9地点の高品質・安定生産達成率(一等米、かつ単収600kg/10a)は、品質未達1件、単収未達7件で、達成率は11%となり、目標を下回った。

## 【対象者】

- 「青天の霹靂」新規作付者37名及び前年産出荷基準未達者3名
- 管内水稻生産者及び「はれわたり」作付希望者25名



「はれわたり」の研修会



西北地域PT研修会



「青天の霹靂」の個別指導



## 2 スマート農業を活用した大規模稲作省力・低コスト技術の普及 ～関係者の連携によるスマート農業技術の周知～

### 【概要】

- 水田農業の担い手が労働力不足の中で更なる規模拡大に対応できるよう、スマート農業技術の導入による省力・低コスト化の実証・普及に取り組んだ。

### 【背景・課題】

- 担い手の大規模化が急激に進み、農地の分散や労働力不足等により寒冷地稲作技術を徹底できない事例が見られることから、整備が進んだ大区画ほ場や高精度の位置情報が得られるRTK-GNSS基地局を利用し、スマート農業一貫作業体系の検証やスマート農業機械の導入を啓発し、省力・低コスト技術の普及拡大を図る。

### 【普及指導活動の内容】

- 西北型水田農業推進協議会を開催し、関係者間で、スマート農業推進の取組内容の確認や情報共有を行った。
- ロボットトラクタによる無人での大豆は種作業の実演会を開催し、作業性、作業精度を間近で見てもらった。
- スマート農業研修会を開催し、先進地事例の紹介や技術導入の考え方等の周知を図った。
- スマート農業一貫作業体系実践モデルの経営データ等を収集し、結果を検証した。また、条件不利地での水稲早生品種の導入効果を実証した。

### 【成果】

- スマート農業一貫作業体系（高密度は種苗＋全量基肥体系）実践による10 a 当たり労働時間は、導入前の慣行栽培14.4時間と比べ25%減の10.8時間と省力化された。
- 実演会・研修会等による周知活動の結果、スマート農機導入経営体数は、前年から95経営体増えて210経営体となった。
- 今後の周知活動に活用するため、これまでに実証してきたスマート農機の紹介や実証結果、導入効果等をまとめて、西北型スマート農業導入マニュアルを作成した。

### 【対象者】

- 津軽米づくりネットワーク（45名）
- 五所川原広域水田フル活用推進協議会（25名）
- 株式会社十三湖ファーム



西北型水田農業推進協議会



ロボットトラクタによる大豆播種実演会



西北地域スマート農業研修会

### 3 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及 ～普及展示ほを活用した省力化技術の実証等による取組みの普及拡大～

#### 【概要】

- 水稲単一経営が多く、米価下落の影響を大きく受ける津軽北部地域の農業者を対象に、ブロッコリーやにんにくの普及展示ほを活用した省力化技術の実証や先進地視察研修、野菜導入セミナー等を開催し、複合経営の普及拡大に取り組んだ。

#### 【背景・課題】

- 津軽北部地域では、水稲栽培の依存度が高く、水田へ野菜を導入する際の作業時間や収益性に不安があることにより、複合経営の取組みが少ない。
- 「水稲＋高収益作物」の普及展示ほを設置し、省力化技術の実証を行うとともに、作業時間、収益性、実践事例を周知し、普及拡大に向けた取組を行う必要がある。

#### 【普及指導活動の内容】

- 西北型水田農業推進協議会を開催し、中泊町を含む津軽北部地域での野菜導入を推進するための戦略を策定した。
- 普及展示ほ2か所（「水稲＋ブロッコリー」、「水稲＋にんにく」）で現地検討会を開催し、作付体系の検討を行った。
- 各展示ほでドローンでの薬剤散布実演会を開催し、防除効果や作業の省力化を検討した。
- つがる市で複合経営を実践している先進農家の視察研修を開催し、にんにく乾燥技術等を情報収集した。
- 水田への野菜導入セミナーを開催し、実証試験結果や複合経営に取り組む農業者の実践的な事例発表、他県の優良産地を紹介することにより、導入を働きかけた。

#### 【成果】

- 水稲への野菜導入に向けた意識啓発により、中泊町の野菜導入経営体数が8戸から11戸に増加（ブロッコリー、にんにく、ねぎを導入する農家が3戸増加）した。

#### 【対象者】

中泊町の中小規模稲作経営体(101戸)、新規就農者



にんにくドローン薬剤散布実演(5/26)



先進農家視察研修(7/28)



水田への野菜導入セミナー(1/30)

## 4 水稲育苗用ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大 ～基本技術の習得による高収益作物の導入促進～

### 【概要】

- 水稲と高収益作物の複合経営の確立を目指している中泊町において、水稲育苗ハウスを活用したシャインマスカット栽培の拡大に向け、関係機関の連携強化と地域の先進事例の成果を生かした技術支援に取り組んだ。

### 【背景・課題】

- 西北地域では、水稲と高収益作物の組合せによる安定した複合経営の確立を目指し、水稲育苗ハウスを活用したシャインマスカットの導入が進んでいる。
- 対象の中泊町では、稲作経営が主体で、ぶどうの栽培経験のある生産者が少なく、栽培知識が不足しており、市場等、果樹の関係機関との連携も弱い。
- このため、各関係機関の連携強化と情報の共有化、ハウス栽培での基本技術の習得に向けた支援が必要であった。

### 【普及指導活動の内容】

- 水稲育苗ハウスシャインマスカット栽培の拡大に向け、中泊町シャインマスカット生産者協議会との情報共有や高品質生産に向けた今後の講習会の開催内容や時期等の検討を行った。
- 適期栽培管理を普及するための展示ほを、町内で高品質な果房を生産している生産者のほ場1か所に設置した。
- 花穂整形、無核処理、摘粒、剪定など主要作業に合わせた栽培講習会を開催し、管理の目的や作業適期、作業内容について指導を行った。
- 講習会だけでは説明しにくい苗木の管理や樹の仕立て方などについては、巡回により栽培技術の指導を行った。

### 【成果】

- 役場や産地市場などの関係機関と連携して支援を行ったことで、協議会や講習会において生産者間の情報交換が進むとともに、講習会や個別指導を通して、適期栽培管理の必要性について理解が進んだ。これらの取組の結果、中泊町シャインマスカット生産者協議会の会員が7名増えた。

### 【対象者】

中泊町シャインマスカット生産者協議会  
及び新規作付者（20名）



栽培講習会



巡回による個別指導



水稲育苗ハウス内のシャインマスカット

## 5 地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり

～継続的で住みよい農村暮らしに向けて～

### 【概要】

- スマート農機導入による省力化や販売方法の多様化、常時雇用の拡大や農福連携、地域の後継者育成など、地域の実情に対応した取組を支援した。
- 五所川原市三好地区において、集落の維持活性化に向けた話合いと、住民による地域運営組織の育成に取り組んだ。

### 【背景・課題】

- 農村地域は人口減少と高齢化が進行し、耕作放棄地の増加や、集落機能の維持存続が危惧されていることから、集落などの「地域」を一つの会社と見立てて経営していくという「地域経営」の考え方に立ち、地域の農林水産業の中核を担う経営体（地域経営体）の、経営力の強化と地域活動の促進を支援する必要がある。また、関係機関と連携し、共助・共存の農山漁村づくりの意識啓発に取り組む必要がある。

### 【普及指導活動の内容】

- 市町のマネジメント事業及び地域経営体の取組に対する支援を行った。
- 農協等を通じて県補助事業に取り組む地域経営体を掘り起こし、そこをモデルとして取組を地域に波及するための実演会等を行った。
- 共助・共存の農山漁村づくりに向け、中間支援組織とともに話合いの場を作り、大学や市役所との連携調整の下、モデル地区の活動支援を行った。

### 【成果】

- 2市3町においてマネジメント事業が実施され、若手りんご農家の育成や高齢者の居場所づくり等の取組が進んだ。
- 3つの地域経営体が事業を通して、地域の高齢化に対応した稲わら収集と省力化技術の実証や、高収益をもたらす枝豆収穫調整技術の実証を行った。
- モデル地区である五所川原市三好地区の有志が「三好をあじあう会」という団体を結成し、イベントの開催や今後の活動についての計画を作り上げた。

### 【対象名】

- 西北管内の地域経営体(118経営体) 及び地域経営体候補 (40経営体)
- 五所川原市三好地区住民



中泊地域マネジメント部会の様子 (1/27)



稲わら収集実演会 (10/14)



三好をあじあう会主催イベントの様子 (8/21)

## 6 地域を支える農山漁村起業の推進

～女性起業家の経営発展と地域課題解決活動への支援～

### 【概要】

- 女性起業家の経営力向上とともに、地域活動をリードする女性起業家の育成と地域貢献活動の確立に向けた支援に取り組んだ。

### 【背景・課題】

- 西北管内の農山漁村女性による起業活動は、産直の魅力向上、情報発信などで地域全体の活性化につながるほか、女性の社会参画、地域貢献にも寄与している。
- 各組織では高齢化対策、魅力ある商品や体験メニューづくり、起業初期の収益確保など、段階に応じた支援が必要となっている。
- 人口減少が進む中で、地域において様々な共助の仕組みづくりが急務となっていることから、高齢者への配食サービスなど、先駆的な取組のノウハウを生かして、地域貢献活動を持続的に展開できる起業家の育成が必要となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 女性起業活動の実態調査を行い、個々の課題や今後の支援策を整理した。
- インボイス制度を学ぶ講座を開催し、女性起業家の経営力向上を図った。また、女性起業家の新たな取組開始に向けて、試験研究機関と連携した技術指導や補助事業の活用、事例紹介などの個別指導を行った。
- 地域の「食」を生かした地域課題解決の取組を拡大するため、郷土料理の伝承に取り組む事例や技術を学ぶ研修会を開催したほか、高齢者支援などの地域課題解決に取り組む女性起業を支援した。

### 【成果】

- 女性起業家への支援により、3件の女性起業家が、それぞれ新商品開発、SNSによる情報発信、加工施設整備等新たな取組を開始した。
- 高齢者の孤立防止に向けた出張カフェの開設、「食」の研修会やワークショップ開催による住民の交流促進など、2件の女性起業が地域貢献活動に取り組んだ。

### 【対象者】

- 西北管内農山漁村女性起業家(68経営体)  
(加工販売活動、産直活動、グリーン・ツーリズム実践者等)
- 起業活動に関心のある女性農業者



インボイス制度を学んだ起業活動基礎講座



絵巻ずしを学んだ郷土料理伝承会



高齢者が交流する出張カフェ

## 7 労働力確保対策の推進による生産体制の整備

～農福連携による障がい者就労の促進～

### 【概要】

- 農福連携の取組を広げるため、管内の農業者、福祉事業所、農協、行政機関で構成される農福連携情報連絡会を設置した。
- 農業者への農福連携の理解度向上のため、福祉事業所を利用している障がい者及び指導者で構成する農作業ユニットと農協組合員をマッチングし、障害者が農作業に従事する「チャレンジ農福」を実施した。

### 【背景・課題】

- 県内で農福連携を実施している農業者は66経営体で、うち西北管内は4経営体と取組実績が少ない状況となっている。
- 農福連携について、農業者側、福祉事業所側ともお互いの状況がよく分からない状況にある。

### 【普及指導活動の内容】

- 農福連携情報連絡会を開催し、管内の農福連携の事例紹介と農福連携の取組の留意点を説明し、農福連携の取組を推進した。
- 農福連携現地検討会を開催し、「チャレンジ農福」の取組を通じて農業者側と福祉事業所側の相互の理解を深めた。
- 障害者就労継続支援A型事業所「にじのいろ」の白川恵氏を講師に、「農業分野での障害者の自立や就労支援の取組」と題して事例発表していただき、農福連携の取組を支援した。
- 「農業者が希望する農作業と利用者ができる農作業」をテーマに情報交換会を開催し、農業者が希望する農作業と利用者ができる農作業のほか、県の主要品目の作業内容・作業時期や他地域の「チャレンジ農福」の取組など情報提供した。

### 【成果】

- 西北地域農福連携情報連絡会を設置したことで、農業者側と福祉事業所側の相互の理解が深まり、農作業の細分化により農業者が希望する農作業と利用者ができる農作業（りんご・枝拾い及び苗木へのかん水など）をリストアップした。

### 【対象者】

- 農業者（12経営体）
- 福祉事業所（15事業所）
- J A（3団体）
- 市町（7機関）



第1回情報連絡会(7/6)



チャレンジ農福(赤～いりんごの収穫)(9/16)



農福連携現地検討会(11/25)

# 1 栽培基本技術の徹底によるながいも産地力強化

## 【概要】

- ・ J Aやながいもの達人と連携した栽培講習会の実施により、ながいも栽培の基本技術の徹底を支援した。また、ながいもカルテの情報分析により収量・品質が J A平均を下回っている農家を対象に、生産技術チェックシートを活用した個別指導を実施し、栽培管理の改善を促した。

## 【背景・課題】

- ・ 指導対象①のながいもの平均販売単収は J A平均より高いが、A・B品率が低いことから、基本技術の徹底による品質向上が必要である。
- ・ 指導対象②は産地をけん引していく生産者であることから、研修受講やながいもカルテに基づく指導により栽培技術の向上を図る必要がある。

## 【普及指導活動の内容】

- ・ 基本技術の習得を支援するため、ながいもの達人を講師とした種子選別講習会を実施した。また、J Aと普及が連携して実施した栽培講習会で、種子別の生育状況に応じた追肥、病虫害防除等の指導を行った。(対象①)
- ・ ながいもカルテで収量・品質が J A平均を下回った塾生に対し、生産技術チェックシートを活用して個別指導を実施した。(対象②)
- ・ J Aとの連携により、ながいもの達人を講師とした栽培技術(追肥、防除、雑草管理等)の講習会を開催した。(対象②)

## 【成果】

- ・ 種子選別の重要性のほか、種子を重量別に植え分けることも収量や品質に影響することが理解された。(対象①)
- ・ 天候に応じた追肥や、効果的な病虫害防除方法について理解された。(対象①)
- ・ 個別指導の結果、堆肥の施用時期やトラクター耕の時期、防除間隔等を改善するなど技術向上につながった。(対象②)
- ・ 講習会受講により、追肥判断や病虫害・雑草防除技術のほか、大雨による穴落ち後の対策等について活発な質疑応答がなされ、収量・品質の向上に向けた意識が高まった。(対象②)

## 【対象者】

- ① J A十和田おいらせ野菜振興会  
ながいも専門部会大深内支部 (76人)
- ② J A十和田おいらせながいも担い手育成塾生 (34人)



種子選別講習会 (講師：ながいもの達人、4/14)



生産技術チェックシートを活用した個別指導 (11/14)



栽培講習会 (講師：ながいもの達人、7/26)

## 2 ながいもの産地実態を踏まえた高品質安定生産による産地強化

### 【概要】

- ・ J Aと連携し、収量・品質が平均より低い生産者を主体に、個人カルテにより個別指導を行った。また栽培講習会や採種ほ巡回等の場で、採種ほの管理、強風雨等の害に対応した栽培技術等、ながいも栽培の基本技術の指導を行った。

### 【背景・課題】

- ・ J A管内のながいも生産者の技術は全般的に高いが、収量・品質が低い生産者も見られるため、実態を踏まえた技術改善指導により、全体の高品質安定生産につなげる必要がある。
- ・ 種子生産についての関心は低い傾向にあり、指導を強化する必要がある。
- ・ 地力低下や過剰作付けによる収量・品質低下、強風雨等に対応した栽培技術を普及する必要がある。クロルピクリン剤ほか農薬の適正使用指導の継続も必要である。

### 【普及指導活動の内容】

- ・ J Aとともに技術改善指導を行う生産者を重点指導対象者として選定し、個人カルテを作成し、個別指導を行った。
- ・ J Aと共同で実施した部会員に対する耕種実態の調査結果を基に課題整理を行い、冬季営農講座等の場で調査結果を説明するとともに対策を指導した。
- ・ 現地講習会や採種ほのウイルス抜取作業時等で、アブラムシ類の防除を主体とした防除や隔離ほ場の設置等を指導した。
- ・ 生産基盤の強化策の一つとして、輪作体系、緑肥の作付けを推進した。
- ・ 土壌消毒作業が行われる時期に、J A、三沢市と合同で現地ほ場の巡回指導を行った。

### 【成果】

- ・ 個別指導により、問題点が生産者ごとに絞られ、理解を深めさせることができた。
- ・ 採種ほにおけるアブラムシ類防除やモザイク株抜取り等の指導の結果、ウイルス病防除の重要性が理解された。
- ・ 災害に対応した技術指導の結果、大雨による穴落ちや表土流出、また強風による支柱・ネットの損壊等への事前・事後対策の重要性への認識が深まった。
- ・ 緑肥作付の推進を図った結果、地力維持等の効果への理解が深まり、スタックス、ヘイオーツ等の緑肥面積が拡大した。

### 【対象者】

J Aおいらせ野菜推進委員会  
長いも部会（192人）



指導対象への個別指導（8/7）



JA採種ほでの栽培講習会（8/2）



緑肥利用の様子（9/14）



### 3 労働力不足に対応するスマート農機の普及拡大

～上北地域の大規模露地野菜産地の維持・拡大に向けて～

#### 【概要】

- スマート農機の普及拡大に向け、県民局重点枠事業を活用し、研究会の開催による情報共有、女性農業者や若手農業者等を対象とした研修会やフォーラムの開催を通じて、自動操舵トラクタを中心としたスマート農機の活用方法やメリットについて周知し、普及拡大を図った。

#### 【背景・課題】

- 上北地域は県内有数の露地野菜産地であるが、高齢化や担い手不足に伴い農業就業人口が急激に減少する一方、1経営体の経営面積は拡大傾向となっており、労働力不足が深刻化している。
- 管内では、自動操舵トラクタを中心としたスマート農業機械が導入されているものの、利用効果や活用方法が周知されていない。

#### 【普及指導活動の内容】

- スマート農機導入経営体、関係機関・団体、農機メーカー、試験研究機関等で構成される研究会を開催し、情報共有を図った。
- 女性農業者や若手農業者を対象として、自動操舵トラクタの活用方法を学ぶ研修会を開催した。
- スマート農機研究の第一人者である北海道大学の野口教授を講師としてフォーラムを開催した。
- 農機メーカーと導入農家の協力の下、自動操舵トラクタの活用方法を解説するビデオマニュアルを作成した。

#### 【成果】

- 研究会の開催により、スマート農機の活用や導入支援の取組状況について、関係機関での情報共有につながった。
- 研修会やフォーラムの開催により、自動操舵のメリットや活用方法について理解が深まり、スマート農機導入に向けた機運の醸成が図られた。
- 自動操舵トラクタの導入経営体数及び導入台数が増加した。  
経営体数 R2 : 34 → R4 : 156戸・法人  
導入台数 R2 : 41 → R4 : 183台

#### 【対象名】

名誉農業経営士（41人）、農業経営士（35人）、青年農業士（34人）、ViC・ウーマン（58人）、かみきた畑美人（69人）、4Hクラブ員（45人）、新規就農者（64人）ほか



第1回研究会（6/22）



自動操舵トラクタ活用研修会（10/25）



スマート農機普及推進フォーラム（1/23）

## 4 大豆の安定生産と省力・低コスト技術の導入による収益性の向上

### 【概要】

- 生産情報の提供、栽培講習会の開催及び土づくり指導等により、適期作業と基本技術の徹底を支援したほか、大豆栽培技術改善策整理表の作成を通じて各経営体の課題を洗い出し、技術改善の取組を支援した。

### 【背景・課題】

- 大豆の収量は年次変動が大きく安定した所得の確保が難しいことから、経営体ごとの収量低下の原因を明らかにし、経営体の実態に合わせた技術改善策を講じる必要がある。
- 担い手の高齢化や一戸当たりの耕作面積の拡大により労働力不足が進行しており、将来を見据えた省力技術の導入が必要である。

### 【普及指導活動の内容】

- 生産情報紙「だいず通信」を発行し、生育調査結果に基づいた作業適期を細やかに情報発信し、基本技術の徹底や適期作業の実施を支援した。
- 経営体ごとに大豆栽培技術改善策整理表を作成し、整理表に基づいた技術改善を提案するとともに、導入を支援した。
- J A十和田おいらせと連携した緩効性肥料の試験ほや、適正な栽植本数の確保に向けた実証ほを設置し、地域に合った栽培方法の確立に向けて活用した。
- J A十和田おいらせとの共催により管内の大豆生産者を対象とした集合研修を開催し、ほ場の排水対策や土づくり、除草作業のポイント等を指導した。

### 【成果】

- 生産情報紙「だいず通信」は、経営体の作業計画に役立てられたほか、経営体の抱える課題として特に多い雑草防除対策や病虫害防除対策についてこまやかに情報発信したため、使用薬剤や防除時期が見直され、栽培管理の適正化が図られた。
- 16経営体が大豆栽培技術改善策整理表を作成し、うち9経営体が栽植本数や使用資材の見直し、病虫害や雑草防除の適期作業などの課題解決に取り組み、虫害粒の減少による単収の向上や、作業の効率化によるコスト削減等、各経営体で収益性が改善された。

### 【対象者】

- ①集落営農組織（6組織）
- ②大規模生産者（16戸）

計22経営体



改善技術の導入支援(7/1)



肥料試験ほの生育調査(7/11)



令和5年産大豆栽培講習会(3/9)

## 5 TMRセンターを核とした酪農経営支援

### 【概要】

- TMR（総合混合飼料）の原料となる粗飼料の生産を支援したほか、北栄トラクター利用組合（東北町）とディリーサポート吹越（六ヶ所村）へTMR利用者の乳質情報を提供し、TMR利用者の乳量・乳質向上に向けた個別支援を行った。

### 【背景・課題】

- TMRセンターを円滑に運営するために、飼料用とうもろこしの収量及び品質を向上させる必要がある。
- TMR利用者の所得向上を図るため、出荷乳量及び乳質の向上に向けた飼養管理技術の改善が必要である。

### 【普及指導活動の内容】

- 両TMR飼料生産責任者に対し、自給飼料の収量、品質向上に向けて、改善点を提案し実施できる内容について検討した。
- ゆうき青森農協と連携し、毎月2回、バルク乳の乳質検査結果を取りまとめ、TMRセンターや飼料メーカーに提供し、乳質改善を支援した。
- TMR利用農家に対し、農協が実施したバルク乳スクリーニング検査結果を基に乳質改善を指導したほか、飼養管理の改善を指導した。

### 【成果】

- 飼料用とうもろこしの肥培管理、すす紋病対策、適正栽植本数等を指導して取り組んだが、日照不足や多雨などの影響により草丈が短く、子実も小さいなど、全体収量は平年の約1割ほど減少した。しかし、適期刈取りできたことから品質の良いサイレージに調製できた。
- 乳質検査結果を取りまとめて、飼料メーカーに提供したところ、乳質の変化に対応してエサの設計を見直すことができた。
- バルクスクリーニング検査結果を基に飼養管理の改善箇所を指導したところ、牛床の消毒や搾乳作業の見直し等によりTMR利用者の乳量・乳質が前年度より向上した。

### 【対象者】

- ①(農)北栄トラクター利用組合TMR利用者（17名）
- ②ディリーサポート吹越TMR利用者（14名）



全体会でTMRについて検討（9/9）



換気改善の効果を検証（7/4）



ウォーターカップ清掃を実践で指導（8/5）

## 6 新規就農者の定着と経営管理能力の強化

～各種講座による基礎力向上、地域ぐるみの仲間づくり支援～

### 【概要】

- 新規就農者の生産技術や経営管理能力等の向上を目的とした講座を開催した。
- 重点指導対象者に絞った課題解決を支援した。
- 4Hクラブへの勧誘や農業士会主催行事への参加呼び掛けなどによる、仲間づくりを支援した。

### 【背景・課題】

- 新規就農者の多くは農業に関する知識・技術が不足し、農産物の収量・品質が不安定で、経営感覚に乏しく、安定的な収益を確保できていない。
- 非農家出身の新規就農者の中には、身近な相談相手がなく、必要な情報収集ができずに離農するケースも見られる。

### 【普及指導活動の内容】

- ヤングファーマーゼミナールにおいて、「農薬の使用法」や「土づくり」などの営農基礎講座、「機械のメンテナンス」や「農作業事故の発生状況」などの農作業安全研修、「パソコンを活用した複式簿記の実践」などの農業経営研修、このほか地域の先輩農業者やにんにく種苗生産会社等の視察など、幅広い研修を実施した。
- 支援の必要性が高いと考えられた新規就農者で普及指導員による伴走支援に合意した農業者を重点指導対象者に位置付け、個々の課題解決に向けた支援を行った。
- 新規就農者の仲間づくりや地域ぐるみの支援を充実させるため、4Hクラブへの勧誘や農業士会主催の現地研修会への参加を呼び掛けた。

### 【成果】

- ヤングファーマーゼミナールの開催により、受講者の基礎知識習得や経営管理能力の向上を図ることができた。
- 課題解決に取り組んだ重点指導対象者の多くが、栽培技術等の改善を図ることができた。
- 農業士会主催の現地研修会への参加をとおして、お互いに交流を深めることができた。

### 【対象者】

就農5年以内の農業者、農業次世代人材投資資金受給者（40人）、青年等就農資金借入者（26人）、法人雇用就農者、就農希望者、準備型研修受講者（4人）ほか



にんにく視察研修（6/6）



重点指導対象者に対する巡回活動（6/28）



農業士会現地研修会（9/16）

## 7 地域共生社会を支える女性人財の育成と産直組織の新たな取組拡大

### 【概要】

- 地域共生社会の実現に向けて、産直組織による地域貢献活動にもつながる新たな取組の拡大と、地域貢献活動に取り組む女性人財の育成を図った。

### 【背景・課題】

- 管内の産地直売施設は、1施設当たりの年間販売額が伸び悩んでおり、新たな取組が必要とされているほか、買物弱者支援等の地域貢献活動への取組も求められている。
- V i C・ウーマンや生活研究グループ等は、これまでの活動ノウハウを生かし「食」に関する地域課題解決への取組が求められている。
- 女性起業家は、高齢化等により減少が続いており、新たな人財の育成や食文化の伝承、事業継承に係る意識啓発が必要とされている。

### 【普及指導活動の内容】

- 管内産直組織3団体による、地域貢献活動を伴走支援し、その成果を波及させるための「かみきた産直チャレンジセミナー」を開催した。
- 東北町特産品販売促進協議会に対し、高齢者向け惣菜の移動販売やコミュニティの場作りの伴走支援を行った。
- 郷土料理の伝承研修会と事業継承に係る研修会を開催した。
- 女性起業活動実態調査及び起業志向者等に対する個別相談を実施した。
- 女性起業家向けの加工技術及び販売技術講座を開催した。

### 【成果】

- 産直組織による地域貢献活動のモデルが3事例実施され、管内他産直組織への波及が図られた。
- 「食」に関する地域課題解決活動に取り組む組織1団体が育成された。
- 女性起業志向者に対し、個別相談に対応した結果、1人が起業活動を開始した。

### 【対象者】

管内産直団体26組織、管内女性農業者（かみきたV i C・ウーマンの会50人、かみきた農と暮らしの研究会35人、女性起業志向者等）



町のキッチンカーとコラボした移動販売（11/18）



高齢者向け惣菜の移動販売（10/18）



生米パン加工技術の研修（8/19）

# 1 新規就農者による「夏秋いちご」の産地力強化

～ 新規就農者の技術力向上による経営安定化 ～

## 【概要】

- 下北地域における夏秋いちごの産地力強化を図るため、新規就農者の栽培技術向上とスマート農業技術を活用した多収・安定生産技術の確立に取り組んだ。

## 【背景・課題】

- 下北地域では夏秋いちごの産地化が進んでいる。
- 生産者の約3分の2が新規就農者で、その多くは非農家からの新規参入である。
- 産地の維持・拡大に向けて、新規就農者の技術力向上と経営安定化が課題となっている。

## 【普及指導活動の内容】

- 夏秋いちごレベルアップ研修会を開催し、適正栽培管理指導に加え、新品種やスマート農業関連の先進地を視察した。
- 冬期にミニ勉強会を開催し、新規就農者や就農予定者に対し、農業の基本技術を講習した。
- 個別巡回により、生産者各々の課題に指導・対応した。特に新規就農者2名に対しては重点的に指導した。
- 篤農家2名に「新規就農アドバイザー」を依頼し、相談体制を強化した。
- 管内の新品種試作ほ場を予備調査し、研修会等で情報提供した。
- 自動施肥かん水機器の導入ほ場にスマート農業試験展示ほを設置し、生育・土壌診断に基づく施肥管理を検討した。

## 【成果】

- 研修会や講習会、アドバイザー、個別巡回等の指導により、適切な栽培管理を行う生産者が増加した。
- 新規就農者への重点的な指導により、2名のうち1名は目標収量を達成した。
- 新品種の情報が共有され、令和5年から3名が本格導入し、1名は苗増殖に取り組む見込みとなった。
- 自動施肥かん水システムの試験展示ほの成績検討会を開催し、適切な管理方法について理解が深まった。

## 【対象者】

J A十和田おいらせ野菜振興会むつ支部いちご部会（21名）、新規就農者10名（重複あり）



目揃え会（5月）



個別巡回でカミシ被害の相談に対応（7月）



レベルアップ研修会（10月）